

CAMERA WITH DATE IMPRINTING FUNCTION

Publication number: JP8114849 (A)

Publication date: 1996-05-07

Inventor(s): ISHIGURO MINORU; IWAMOTO JUNICHI +

Applicant(s): FUJI PHOTO OPTICAL CO LTD +

Classification:

- international: **G03B17/18; G03B17/24; G03B17/18; G03B17/24;** (IPC1-7): G03B17/24; G03B17/18

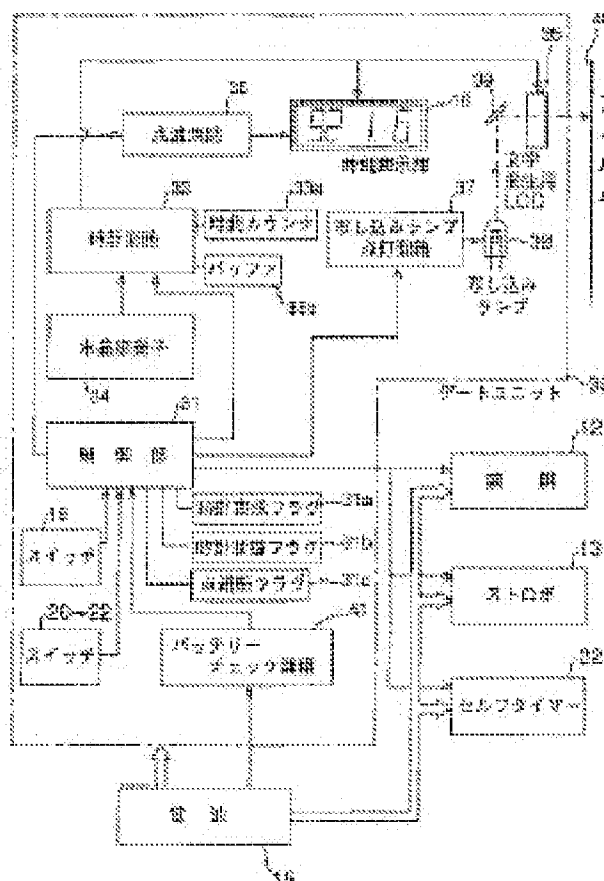
- European:

Application number: JP19940250669 19941017

Priority number(s): JP19940250669 19941017

Abstract of JP 8114849 (A)

PURPOSE: To provide a camera with a date imprinting function to be easily made compact and light in weight by suppressing an increase in the number of switches. **CONSTITUTION:** This camera is provided with switches 20 to 22 allotted with mode setting and time setting functions, a shift switch 19 having first and second states for displaying either of the states due to changing of the switches and a control part 31 for allotting, when the shift switch 19 is in the first state, camera functions to the switches 20 to 22 and displaying a string of numerals indicating time on a time display part 18 by a lighting and allotting, when the shift switch is in the second state, time setting functions to the switches 20 to 22 and displaying at least a part of the string of numerals indicating time on the time display part 18 by a flickering.



Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-114849

(43)公開日 平成8年(1996)5月7日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

室内整理番号

FI

技術表示箇所

G 0 3 B 17/24

17/18

$$Z$$

審査請求 未請求 請求項の数1 O.L (全 11 頁)

(21)出願番号 特願平6-250669

(22)出願日 平成6年(1994)10月17日

(71)出願人 000005430

富士写真光機株式会社

埼玉県大宮市植竹町1丁目324番地

(72) 發明者 石黒 稔

埼玉県大宮市植竹町一丁目324番地 富士

写真光機株式会社内

(72) 発明者 岩本 淳一

埼玉県大宮市植竹町一丁目324番地 富士

写真光機株式会社内

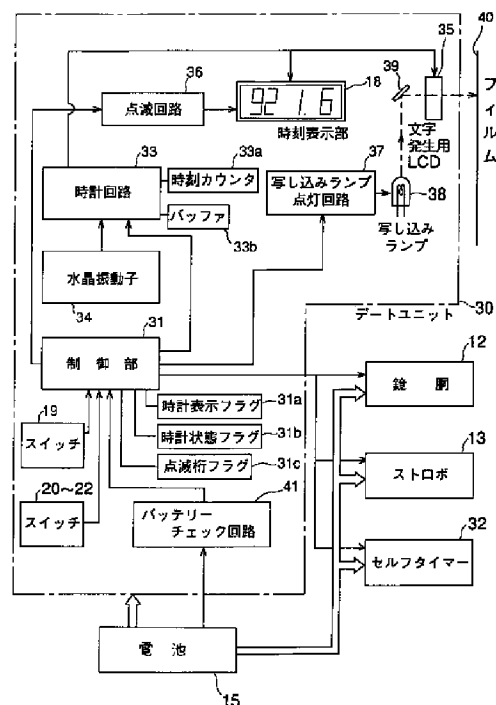
(74)代理人 弁理士 長谷川 芳樹 (外3名)

(54)【発明の名称】 データ写し込み機能付きカメラ

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、スイッチの個数の増加を抑え、小型・軽量化に優れたデータ写し込み機能付きカメラを提供することを目的とする。

【構成】 モード設定機能と時刻設定機能が割り付けられたスイッチ部（２０～２２）と、第１及び第２の状態を有しスイッチの切り替えによっていずれか一方の状態を示すシフトスイッチ（１９）と、シフトスイッチ（１９）が第１の状態の場合にスイッチ部（２０～２２）にカメラ機能を割り付けると共に時刻を示す数字列を時刻表示部（１８）に点灯表示し、シフトスイッチが第２の状態の場合にスイッチ部（２０～２２）に時刻設定機能を割り付けると共に時刻を示す数字列の少なくとも一部を時刻表示部（１８）に点滅表示する制御部（３１）とを備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 現在の時刻をカウントする時計回路部と、この時計回路部でカウントされた時刻を表示する時刻表示部と、この時計回路部でカウントされた時刻をフィルムに写し込む時刻写し込み部とを備えたデパート写し込み機能付きカメラにおいて、ストロボやセルフタイマーなどのモードの設定を行うモード設定機能と前記時計回路部のカウント値の設定・修正を行う時刻設定機能のいずれか一方の機能を割り付け可能なスイッチ部と、第1及び第2の状態を有し、スイッチの切り替えによっていずれか一方の状態を示すシフトスイッチと、前記シフトスイッチが第1の状態の場合に、前記スイッチ部にモード設定機能を割り付けると共に時刻を示す数字列を前記時刻表示部に点灯表示し、前記シフトスイッチが第2の状態の場合に、前記スイッチ部に時刻設定機能を割り付けると共に時刻を示す数字列の少なくとも一部を時刻表示部に点滅表示する制御部とを備えることを特徴するデパート写し込み機能付きカメラ。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は、写真の一部分に撮影時刻を印字するデパート写し込み機能の付いたカメラに関し、特に時刻設定の操作性の優れたデパート写し込み機能付きカメラに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、写真の一部分に撮影時刻を印字するデパート写し込み機能の付いたカメラが開発されている。この従来のデパート写し込み機能付きカメラは、時計回路、表示用LCD、パターン用LCDおよび写し込みランプを備え、パターン用LCDの透明表示板の一方の面がフィルムの裏面と接して配置されている。時計回路でカウントされた時刻データは表示用LCDとパターン用LCDに与えられ、時刻の数字列パターンが表示用LCDに表示される。さらに、この時刻の数字列パターンはパターン用LCDに表示され、パターン用LCDの他方の面に写し込みランプの光が照射される。そして、パターン用LCDを透過した光によってフィルム上に時刻の数字列パターンの影が写り、この影がフィルムに写し込まれる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、時計回路でカウントされる時刻データは、複数のデパートスイッチを用いて外部から調整することができる。これらのデパートスイッチには、表示モード選択用のスイッチ、調整桁選択用のスイッチ、調整桁の加算或いは減算用のスイッチなどがある。ここで、表示モードには表示用LCDに“年月日”を表示するモードや“日時分”を表示するモードなどがあり、調整桁とは“年”、“月”、“日”、“時”、“分”、“秒”のそれぞれをいう。

【0004】 カメラにはこれらのスイッチの他に、ストロボモード選択用のスイッチ、フォーカスモード選択用のスイッチ、セルフタイマーモード選択用のスイッチなどがあり、従来のデパート写し込み機能の付いたカメラはスイッチの個数が非常に多かった。このため、カメラの構成部品数が多くなり、故障の原因となった。また、多くのスイッチをボディ表面に取り付けなければならず、小型化・軽量化の妨げともなった。

【0005】 本発明はこのような問題を解決し、スイッチの個数の増加を抑え、小型・軽量化に優れたデパート写し込み機能付きカメラを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために、本発明のデパート写し込み機能付きカメラは、現在の時刻をカウントする時計回路部と、この時計回路部でカウントされた時刻を表示する時刻表示部と、この時計回路部でカウントされた時刻をフィルムに写し込む時刻写し込み部とを備えたカメラであって、ストロボやセルフタイマーなどのモードの設定を行うモード設定機能と時計回路部のカウント値の設定・修正を行う時刻設定機能のいずれか一方の機能を割り付け可能なスイッチ部と、第1及び第2の状態を有しスイッチの切り替えによっていずれか一方の状態を示すシフトスイッチと、シフトスイッチが第1の状態の場合にスイッチ部にカメラ機能を割り付けると共に時刻を示す数字列を時刻表示部に点灯表示し、シフトスイッチが第2の状態の場合にスイッチ部に時刻設定機能を割り付けると共に時刻を示す数字列の少なくとも一部を時刻表示部に点滅表示する制御部とを備えている。

【0007】

【作用】 本発明のデパート写し込み機能付きカメラによれば、シフトスイッチのスイッチ切り替えにตอบสนองして、制御部ではスイッチ部の機能切り替え、時刻表示部の表示切り替えを行う。つまり、シフトスイッチがスイッチの切り替えによって第1の状態を示す場合に、制御部はスイッチ部にモード設定機能を割り付けると共に、時刻を示す数字列を時刻表示部に点灯表示させる。また、シフトスイッチがスイッチの切り替えによって第2の状態を示す場合に、制御部はスイッチ部に時刻設定機能を割り付けると共に、時刻を示す数字列を時刻表示部に点滅表示させる。

【0008】 このように、スイッチ部にモード設定機能が割り付けられている間は時刻表示部には時刻を示す数字列が点灯表示され、スイッチ部に時刻設定機能が割り付けられている間は時刻表示部には時刻を示す数字列が点滅表示される。このため、本発明のカメラを操作するユーザは、時刻表示部に点灯・点滅のいずれの表示が行われているかを見るだけで、現在、スイッチ部にモード設定機能と時刻設定機能のいずれが割り付けられているか容易に判断できる。

【0009】

【実施例】以下、本発明の実施例について添付図面を参照して説明する。図1は、本実施例に係るデット写し込み機能付きカメラの外観を示す斜視図である。同図より、本実施例のデット写し込み機能付きカメラは、直方体形状のボディ10上面にシャッターボタン11が配置され、ボディ10前面の中央部にレンズの組み込まれた鏡胴12が取り付けられている。鏡胴12は内蔵されたモータの駆動により伸縮することができる。また、ボディ10前面の上部にストロボ13が内蔵され、ボディ10側面に電池収納部14が設けられている。そして、電池収納部14内に電池15が挿入され、電池15からの電力の供給によって鏡胴12を伸縮させるフォーカス調整、ストロボ13の発光、ボディ10内のフィルムの巻き上げ等が行われる。

【0010】さらに、ボディ10裏面の上部中央に電源スイッチ16が設けられ、ボディ10裏面の裏ぶた17上に液晶パネルを用いた時刻表示部18が設けられている。時刻表示部18の下には4個のスイッチ19～22が配列されている。スイッチ19はスイッチ20～22の機能を切り替えるシフトスイッチであり、スイッチ20～22はモード設定機能と時刻設定機能の2種類の機能のいずれかが割り付けられたスイッチ部である。さらにまた、ボディ10裏面上部にスイッチ23～25が横に配列されている。

【0011】本実施例では、スイッチ20～22にモード設定機能、時刻設定機能といった2種類の機能を持たせ、これらの機能の切り替えをスイッチ19で行っている。このため、機能ごとに異なるスイッチを割り当てた従来のカメラに比べて、スイッチ個数を半減させることができる。また、スイッチ20～22の機能の切り替えに連動させて、時刻表示部19の表示を点灯から点滅に、或いは点滅から点灯に切り替えている。このため、スイッチ20～22に現在どちらの機能が割り付けられているかを、時刻表示部19の表示から簡単に判断することができる。

【0012】スイッチ20～22にこのような機能を割り付けるため、本実施例のデット写し込み機能付きカメラには、図2のブロック図に示すデットユニット30が内蔵されている。

【0013】図2より、デットユニット30は、スイッチ19の入力を受け付けて、この入力に基づいてスイッチ20～22の機能を機能切り替える制御部31を備えている。ここで、スイッチ20～22にモード設定機能が割り付けられている場合には、スイッチ20でストロボ13の発光モードの設定を行うことができる。また、スイッチ21でフォーカス調整を行うための鏡胴12の制御モードの設定を行うことができる。さらに、スイッチ22でセルフタイマー32のモードの設定を行うことができる。同様に、スイッチ20～22に時刻設定

機能が割り付けられている場合には、スイッチ20で“年月日”、“日時分”、“OFF”（写し込みOFFのモード）のいずれの表示モードにするかを選択することができる。また、スイッチ21で“年”、“月”、“日”、“時”、“分”、“秒”の中から調整桁を選択することができる。さらに、スイッチ22で調整桁を加算或いは0秒合わせすることができる。

【0014】制御部31は、時計表示フラグ31a、時計状態フラグ31b、及び点滅桁フラグ31cを備えている。時計表示フラグ31aは、時刻表示部18の表示モードが“年月日”、“日時分”、“OFF”のいずれかを示すフラグである。時計状態フラグ31bは、時計回路33の状態が“修正中”か“待機中”かを示すフラグである。点滅桁フラグ31cは時刻表示部18に表示された時刻を示す数字列の内、点滅させる桁が“全桁”、“年”、“月”、“日”、“時”、“分”、“秒”のいずれであるかを示すフラグである。

【0015】さらに、デットユニット30は、時計回路33と水晶発振器34とを備えており、時計回路33は時刻カウンタ33aとバッファ33bを内蔵している。水晶発振器34からパルス信号が出力され、このパルス信号を入力した時刻カウンタ33aは正確な時刻をカウントする。カウントされた時刻カウンタ33aの値は、一旦バッファ33bに蓄えられ、時刻表示部18と文字発生用LCD35に与えられて、時刻を示す数字列が表示される。ユーザがスイッチ20～22を操作して、時刻の設定が行われている間は、バッファ33bの値が修正され、この間も時刻カウンタ33aは時刻のカウントを続行する。そして、バッファ33bの値が確定した段階で、この値が時刻カウンタ33aのカウント値となる。

【0016】さらにまた、デットユニット30は、制御部31の制御によって動作する点滅回路36と写し込みランプ点灯回路37を備えており、点滅回路36は、時計状態フラグ31b及び点滅桁フラグ31cを参照して、時計状態フラグ31bが“修正中”の場合、時刻表示部18に表示された時刻を示す数字列の内、点滅桁フラグ31cに設定された桁を点滅させる。また、写し込みランプ点灯回路37は写し込みランプ38を点灯させ、ミラー39を介して文字発生用LCD35を照射する。照射光は文字発生用LCD35を透過し、この透過光によってフィルム40裏面から露光され、時刻を示す数字列の影がフィルム40に写し込まれる。

【0017】さらにまた、デットユニット30は、電池15の蓄電容量を調べるバッテリーチェック回路41を備えており、調べた結果は制御部31に与えられる。

【0018】このような回路を備えたデットユニット30による処理の詳細を、図3～図7のフローチャートを用いて説明する。

【0019】この処理は電池収納部14に電池15を挿

入することにより開始される。電池15の蓄電量はバッテリーチェック回路41で常にモニタされている。このため、電池15の挿入はバッテリーチェック回路41で判断され、制御部31に処理開始の信号が送られる。

【0020】図3に示すように、処理開始の信号を受けた制御部31は、まず時計回路33に内蔵された時刻カウンタ33aに初期値を設定する。また、時計表示フラグ31aに“年月日”を、時計状態フラグ31bに“修正中”を、点滅桁フラグ31cに“全桁”をそれぞれ設定する(ステップ100)。次に、時刻カウンタ33aの値をバッファ33bを介して時刻表示部18に与え、時刻カウンタ33aの値に基づいた時刻を示す数字列を表示する。この際に点滅回路36が動作し、点滅回路36は時計状態フラグ31bに“修正中”が設定され、点滅桁フラグ31cに“全桁”が設定されていることより、時刻表示部18に表示された数字列の全桁を点滅させる(ステップ101)。

【0021】このように、本実施例では電池15の挿入時に、時刻表示部18に数字列の全桁を点滅表示させている。このため、時刻の再設定が必要であることをユーザは視覚的に理解することができる。また、時計状態フラグ31bに“修正中”が設定されているので、ユーザは時計状態モードを“待機中”から“修正中”に切り替えることなく、迅速に時刻の再設定を行うことができる。

【0022】なお、時刻表示部18に点滅表示させるデータは、エラーコード(例えば、“ERR-999”)や、時刻の再設定を促すメッセージの文字列(例えば、“時刻の設定をして下さい!”)であってもよい。

【0023】次に、時刻表示部18に数字列の全桁が点滅表示された状態で、スイッチ19~25のいずれかが押されるまで処理を待機する(ステップ102、103)。そして、スイッチ19~22のいずれかが押された場合に、各スイッチの処理を行う(ステップ104)。また、スイッチ23~25のいずれかが押された場合には、このスイッチが現在ON状態か調べ(ステップ105)、ON状態の場合はこのスイッチの処理を行う(ステップ106)。ステップ105でスイッチが既にOFF状態になっていた場合とステップ106の処理が終了した場合には、処理をステップ102に戻す。

【0024】次に、ステップ104でスイッチ19が押された場合の処理を図4を用いて説明する。ここで、スイッチ19はスイッチ20~22の機能を切り替えるシフトスイッチである。図4より、まず、スイッチ19がON状態か調べる(ステップ110)。そして、スイッチ19がON状態の場合に、時計状態フラグ31bに何が設定されているか調べる(ステップ111)。時計状態フラグ31bが“修正中”の場合は、時刻カウンタ33aのカウント値をバッファ33bの値に置き換え(ステップ112)、時計状態フラグ31bに“待機中”を

設定して(ステップ113)、時刻表示部18の表示を点灯させる(ステップ114)。ここで、バッファ33bには後述するステップ153~158によって修正されたカレンダー値が格納されており、この値を時刻カウンタ33aのカウント値とすることによって、時刻設定処理が終了する。

【0025】また、ステップ111で、時計状態フラグ31bが“待機中”の場合は、時計状態フラグ31bに“修正中”を設定して(ステップ115)、時刻表示部18の表示を点滅させる(ステップ116)。

【0026】ステップ110でスイッチ19がOFF状態の場合、及びステップ114、116の処理が終了した場合にスイッチ19がOFF状態か調べ(ステップ117)、スイッチ19がOFF状態になった後に処理をステップ102に戻す。

【0027】次に、ステップ104でスイッチ20が押された場合の処理を図5を用いて説明する。ここで、スイッチ20に時刻設定機能が割り当てられている場合には、“年月日”、“日時分”、“OFF”のいずれの表示モードにするかを選択することができる。また、スイッチ20にモード設定機能が割り当てられている場合には、ストロボ13の発光モードの設定を行うことができる。

【0028】図5より、まず、スイッチ20がON状態か調べる(ステップ120)。そして、スイッチ20がON状態の場合に、時計状態フラグ31bに何が設定されているか調べる(ステップ121)。さらに、時計状態フラグ31bに“修正中”が設定されている場合に、時計表示フラグ31aに何が設定されているか調べる(ステップ122)。時計表示フラグ31aが“年月日”の場合には、この時計表示フラグ31aに“日時分”を再設定する(ステップ123)。また、時計表示フラグ31aが“日時分”の場合には、この時計表示フラグ31aに“OFF”を再設定する(ステップ124)。さらに、時計表示フラグ31aが“OFF”の場合には、この時計表示フラグ31aに“年月日”を再設定する(ステップ125)。そして、これらの再設定を行った後に、時刻表示部18の表示を点滅させる(ステップ126)。

【0029】ステップ121で時計状態フラグ31bが“待機中”の場合にストロボモードの設定を行う(ステップ127)。そして、ステップ120でスイッチ20がOFF状態の場合、及びステップ126、127が終了した場合にスイッチ20がOFF状態か調べ(ステップ128)、スイッチ20がOFF状態になった後に処理をステップ102に戻す。

【0030】次に、ステップ104でスイッチ21が押された場合の処理を図6を用いて説明する。ここで、スイッチ21に時刻設定機能が割り当てられている場合には、“年”、“月”、“日”、“時”、“分”、“秒”

の中から調整桁を選択することができる。また、スイッチ21にモード設定機能が割り当てられている場合には、フォーカス調整を行うための鏡胴12の制御モードの設定を行うことができる。

【0031】図6より、まず、スイッチ21がON状態か調べる(ステップ130)。そして、スイッチ21がON状態の場合に、時計状態フラグ31bに何が設定されているか調べる(ステップ131)。さらに、時計状態フラグ31bに“修正中”が設定されている場合に、時計表示フラグ31aに何が設定されているか調べる(ステップ132)。さらにまた、時計表示フラグ31aに“年月日”が設定されている場合に、点滅桁フラグ31cに何が設定されているか調べる(ステップ133)。

【0032】そして、点滅桁フラグ31cが“全桁”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“年”を再設定する(ステップ134)。また、点滅桁フラグ31cが“年”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“月”を再設定する(ステップ135)。さらに、点滅桁フラグ31cが“月”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“日”を再設定する(ステップ136)。さらにまた、点滅桁フラグ31cが“日”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“全桁”を再設定する(ステップ137)。

【0033】ステップ132で時計表示フラグ31aに“日時分”が設定されている場合に、点滅桁フラグ31cに何が設定されているか調べる(ステップ138)。そして、点滅桁フラグ31cが“全桁”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“時”を再設定する(ステップ139)。また、点滅桁フラグ31cが“時”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“分”を再設定する(ステップ140)。さらに、点滅桁フラグ31cが“分”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“秒”を再設定する(ステップ141)。さらにまた、点滅桁フラグ31cが“秒”の場合は、この点滅桁フラグ31cに“全桁”を再設定する(ステップ142)。ステップ134～137、139～142の処理終了後、時刻表示部18の点滅桁フラグ31cに設定された桁を点滅表示すると共に、他の桁を点灯表示する(ステップ143)。

【0034】ステップ131で時計状態フラグ31bが“待機中”の場合にフォーカスモードの設定を行う(ステップ144)。そして、ステップ130でスイッチ21がOFF状態の場合、ステップ132で時計表示フラグ31aが“OFF”の場合、及びステップ143、144が終了した場合にスイッチ21がOFF状態か調べ(ステップ145)、スイッチ21がOFF状態になった後に処理をステップ102に戻す。

【0035】次に、ステップ104でスイッチ22が押された場合の処理を図7を用いて説明する。ここで、スイッチ22に時刻設定機能が割り当てられている場合には、調整桁を加算或いは0秒合わせることができる。

また、スイッチ22にモード設定機能が割り当てられている場合には、セルフタイマー32のモードの設定を行うことができる。

【0036】図7より、まず、スイッチ22がON状態か調べる(ステップ150)。そして、スイッチ22がON状態の場合に、時計状態フラグ31bに何が設定されているか調べる(ステップ151)。さらに、時計状態フラグ31bに“修正中”が設定されている場合に、点滅桁フラグ31cに何が設定されているか調べる(ステップ152)。

【0037】そして、点滅桁フラグ31cが“年”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“年”の値を加算する(ステップ153)。また、点滅桁フラグ31cが“月”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“月”の値を加算する(ステップ154)。さらに、点滅桁フラグ31cが“日”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“日”の値を加算する(ステップ155)。さらにまた、点滅桁フラグ31cが“時”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“時”の値を加算する(ステップ156)。さらにまた、点滅桁フラグ31cが“分”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“分”の値を加算する(ステップ157)。さらにまた、点滅桁フラグ31cが“秒”の場合は、バッファ33bに格納されたカレンダー値の“秒”の値をリセットする(ステップ158)。ステップ153～158の処理終了後、時刻表示部18の点滅桁フラグ31cに設定された桁を点滅表示すると共に、他の桁を点灯表示する(ステップ159)。

【0038】ステップ151で時計状態フラグ31bが“待機中”の場合にセルフタイマーモードの設定を行う(ステップ160)。そして、ステップ150でスイッチ22がOFF状態の場合、ステップ152で点滅桁フラグ31cが“全桁”の場合、及びステップ159、160が終了した場合にスイッチ22がOFF状態か調べ(ステップ161)、スイッチ22がOFF状態になった後に処理をステップ102に戻す。

【0039】以上の処理によって時刻設定及びモード設定を行うことができる。

【0040】なお、本発明は上記実施例に限定されることなく、種々の変形が可能である。例えば、文字発生用LCD35の代わりに文字発生用LEDを用いてもよい。また、本実施例では時刻設定用のスイッチとして3個のスイッチ20～22を備えているが、3個に限定されることなく、2個以下或いは4個以上であってもよい。さらに、モード設定を行う対象は、ストロボ13、フォーカス、セルフタイマー32以外のカメラ機能であってもよい。

【0041】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明のデ

ート写し込み機能付きカメラは、モード設定機能と時刻設定機能が割り付けられたスイッチ部と、第1及び第2の状態を有しスイッチの切り替えによっていずれか一方の状態を示すシフトスイッチと、シフトスイッチが第1の状態の場合にスイッチ部にカメラ機能を割り付けると共に時刻を示す数字列を時刻表示部に点灯表示し、シフトスイッチが第2の状態の場合にスイッチ部に時刻設定機能を割り付けると共に時刻を示す数字列の少なくとも一部を時刻表示部に点滅表示する制御部とを備えている。

【0042】このため、スイッチ部にモード設定機能が割り付けられている間は時刻表示部には時刻を示す数字列が点灯表示され、スイッチ部に時刻設定機能が割り付けられている間は時刻表示部には時刻を示す数字列が点滅表示される。

【0043】よって、本発明のカメラを操作するユーザは、時刻表示部に点灯・点滅のいずれの表示が行われているかを見るだけで、現在、スイッチ部にモード設定機能と時刻設定機能のいずれが割り付けられているか容易に判断できる。

【0044】また、本発明のデート写し込み機能付きカメラは、モード設定用のスイッチと時刻設定用のスイッ

チを同一のスイッチ部で兼用しているため、スイッチ個数を削減することができる。このため、小型化・計量化を図る上で優れ、故障の少ないカメラが提供される。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例に係るデート写し込み機能付きカメラの外観を示す斜視図である。

【図2】デートユニットの構成を示すブロック図である。

【図3】デートユニットによる処理の詳細を示すフローチャートである。

【図4】デートユニットによる処理の詳細を示すフローチャートである。

【図5】デートユニットによる処理の詳細を示すフローチャートである。

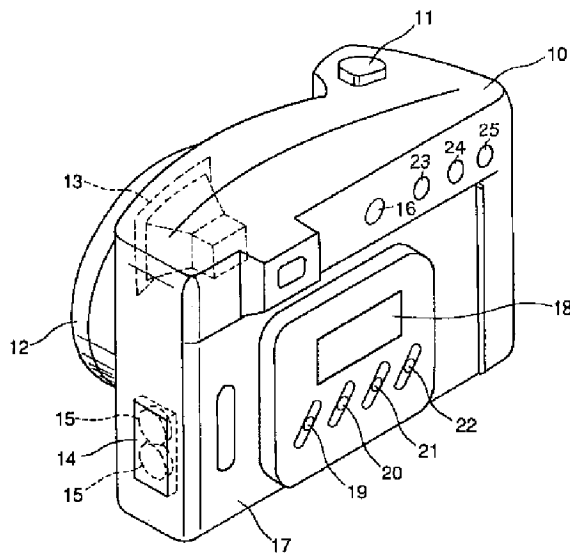
【図6】デートユニットによる処理の詳細を示すフローチャートである。

【図7】デートユニットによる処理の詳細を示すフローチャートである。

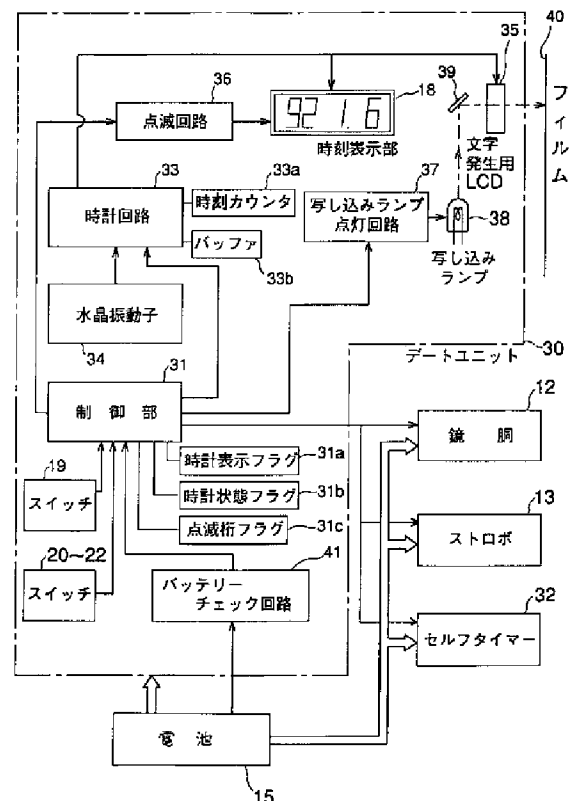
【符号の説明】

18…時刻表示部、19～22…スイッチ、31…制御部、33…時計回路、35…文字発生用LCD、36…点滅回路。

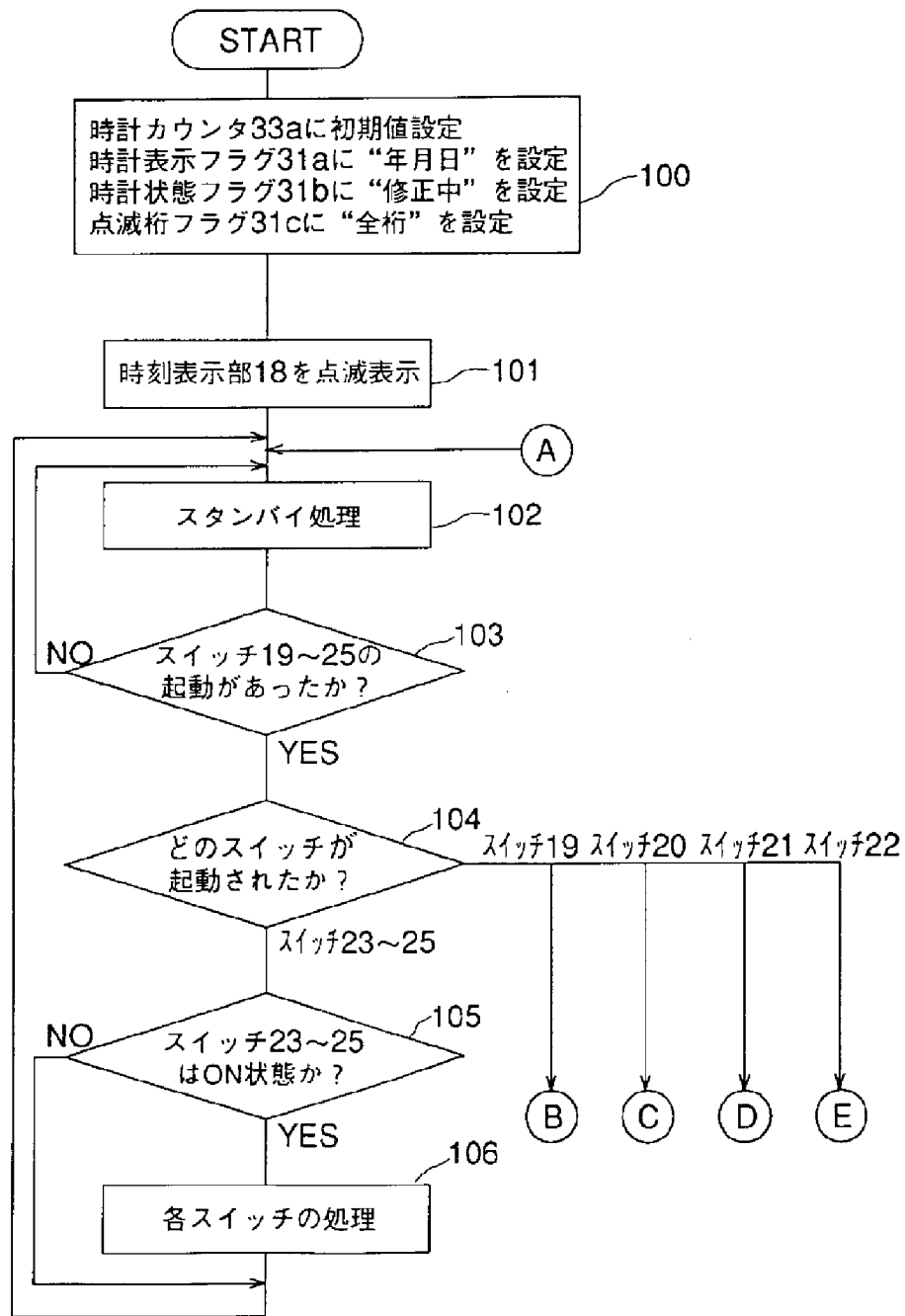
【図1】



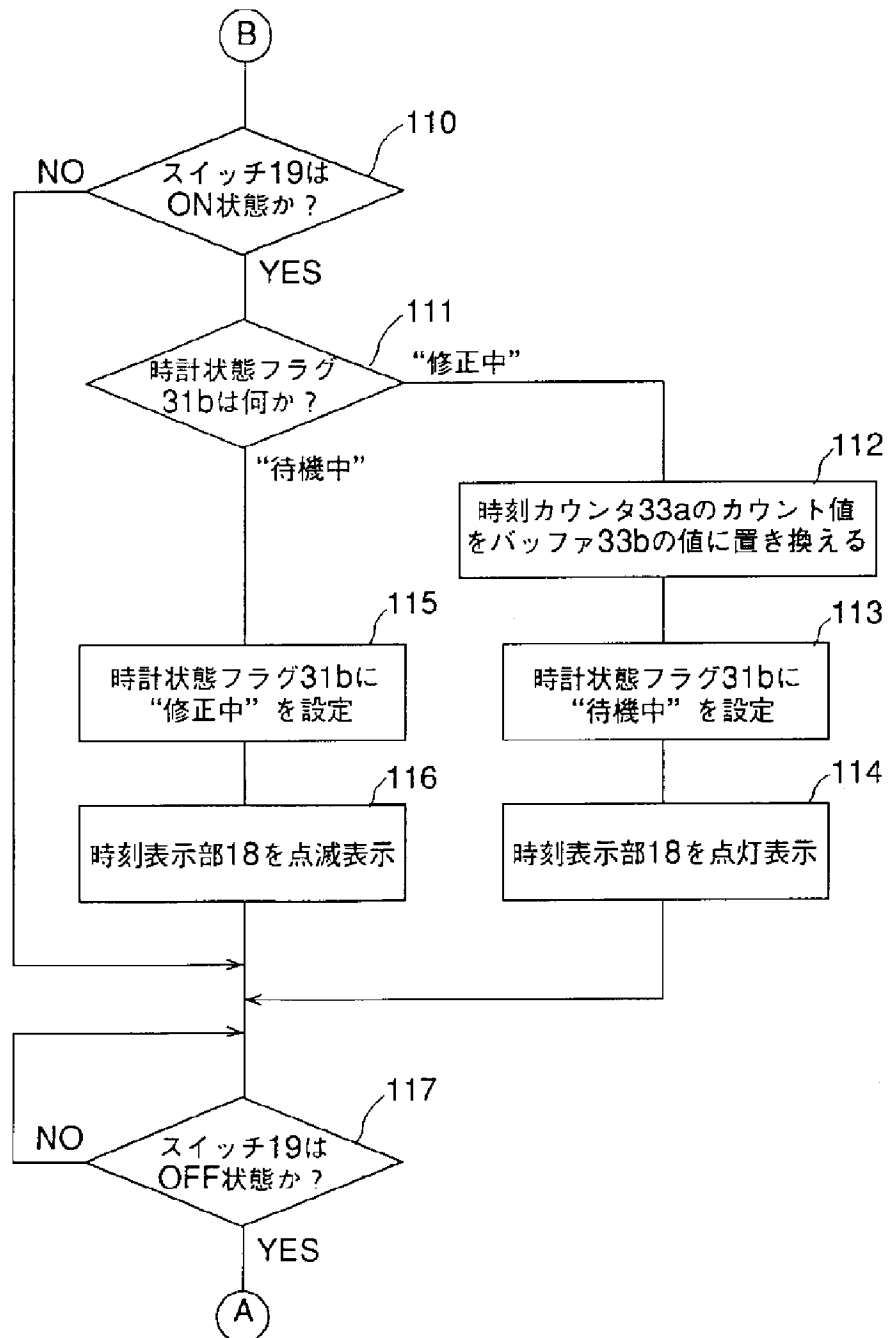
【図2】



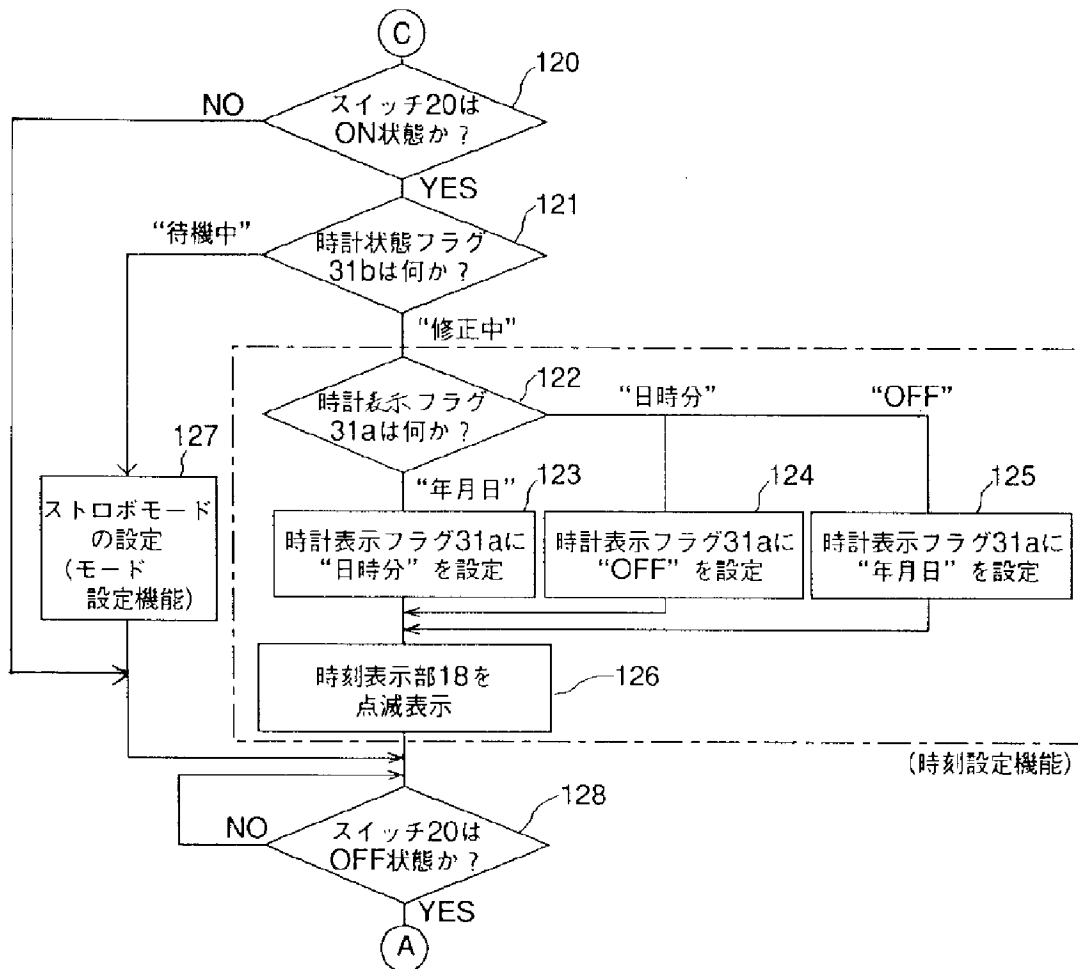
【図3】



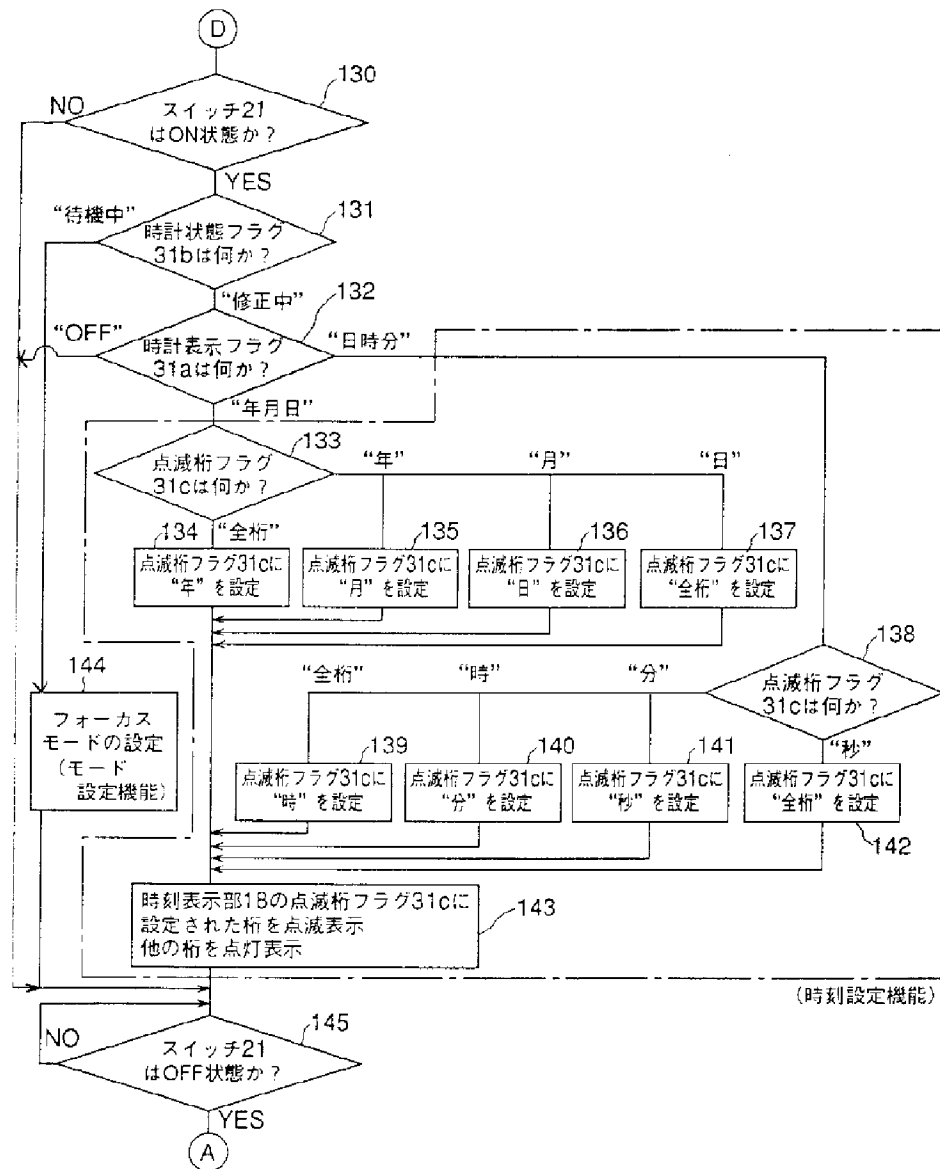
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

